

## ルネサンスと宗教改革

### 今回学ぶこと

ヨーロッパ世界は14～16世紀にかけて、大きな転換をとげた。文化の面では、古代復興と人間主義、人文主義をうたうルネサンス文化が誕生し、それはイタリアからヨーロッパ全域へとひろがった。このルネサンスの精神が、長く権威を持ってきたローマ教会の教えを問い直す宗教改革にもつながっていく。危機の時代から新しい考え方が生まれてくる様子を学ぶことにしよう。

### 調べておこう・覚えておこう

- ローマ教会が16世紀までどのような力を持っていたかを復習しておこう。
- ルネサンス人文主義の代表的な作品とその著者を、3つ確認しておこう。
- カルヴァンが生まれた場所、生涯の活動、活動した場所を、年表と地図で確認しておこう。

### ローマ教会の変容

ローマ教会は、中世を通じて西ヨーロッパ世界の権威の源泉であり、精神的支柱であったが、その影響力は、16世紀までに後退しつつあった。

各地の聖職者や修道院は在地の権力者と変わりがなくなった。十字軍の失敗によってローマ教皇の政治的権威に影が差し、14世紀のペスト大流行によって荒廃したヨーロッパにとって、ローマ教会の教えは必ずしも救いとはならなかった。

### ルネサンス人文主義

ヨーロッパが危機の時代を迎え、ローマ教会がその打開策を与えられなかったとき、イタリアに始まるルネサンスは、キリスト教がおこる前の古代の文化のなかに、生き生きとした人間性の

表現を見いだした。ルネサンスとはフランス語で「再生」を意味する。ルネサンスの精神は、中世のキリスト教の価値観にとらわれずに、古代ギリシアとローマの時代にたちかえり、人間性復活をめざした。古典作品の復元や聖書の読み直しを通じて、人間の多様な生き方を模索した人文主義者たちは、当時普及しつつあった印刷術を活用し、人文主義の学芸をヨーロッパ共通の知とすることができた。

### カルヴァン主義と教会の分裂

16世紀の宗教改革によって、ローマ教会とは別個のキリスト教の宗派(プロテスタント)がヨーロッパ各地に生まれた。そのうち西ヨーロッパに最も大きな影響を与えたのは、主にジュネーヴで改革を実践したカルヴァンである。

カルヴァンは高名な神学者であり、その主著『キリスト教綱要』は、プロテスタントの基本的な教義を示し、各地に同調者を生んだ。

